



有名なお祭りの、代表的な踊り連が観覧できる他にない機会ということで、「祭のまつり」には県外からも多くのファンが訪れます。

■今年は外宮前大通り広場会場／勾玉池奉納舞台で観覧いただけます。（雨天の場合：伊勢市観光文化会館・伊勢シティプラザ）

10月15日(土)外宮前大通り／勾玉池奉納舞台



祭のまつり

伊勢では明治時代から、神宮の神嘗祭をお祝いする市民のお祭りを開催してきました。現在は「神嘗奉祝祭」として奉祝行事が行われています。「祭のまつり」と銘打ち、日本各地から伝統あるお祭りが来勢するように、平成28年で16年目となりました。例年お祭り団体の一人ひとりが新米を携えて奉納のために来訪し、素晴らしい踊りや唄で、「お伊勢

さんのお正月」をお祝いでいただいています。一年に一度、日本三大民謡、三大盆踊り、三大パレードをはじめとする日本各地の祭りが来勢。今年は19団体が参加します。これだけのお祭りが一同に揃い、賑やかにそして華麗に響くことができるのは伊勢ならではの、神嘗祭に、お伊勢さんへの熱い思いとが響きあう、これこそが日本の「祭のまつり」です。

10月15日(土)外宮領／16日(日)内宮領



初穂曳（三番車／特別神領民奉曳）



初穂曳（川曳）

神嘗奉祝祭の主となる催事として、その年に収穫されたお初穂、お米を神宮へ奉納する「初穂曳」が行われます。初穂曳は神嘗祭をお祝いする伊勢にふさわしい行事として、また伊勢の民俗行事である「お木曳行事」「お白石持行事」の伝統継承という意義を踏まえて、昭和47年から開催されています。エンヤの声が秋空に響く、伊勢の民俗行事。15日、外宮領陸曳では、3台の奉曳車を使用。お木曳・お白石持の荷締め技術を伝えようと、それぞれの車にお木・樽そして米俵が積まれ、たわなに実ったお初穂が飾られています。伊勢市民や県内外の特別神領民など、約1500名が参加し、「祭のまつり」会場を運行します。16日の内宮領は、初穂船を曳き五十鈴川をさかのぼる川曳です。今年は四郷地区が運行を担当します。



初穂曳

陸曳・川曳で新穀を奉納

神嘗奉祝祭

開催

十月十四日・十五日・十六日
かんなめほうしゆくさい
神嘗祭をお祝するため、地元神領民や特別神領民は神宮に、新穀を奉納する行事「初穂曳」。そして、全国からは著名なお祭りが伊勢に集い、神宮への感謝の想いを込めて、踊りや演舞などを奉ります。収穫の喜びと五穀豊稔の感謝を皆で分かち合う、それが神嘗奉祝祭です。

10月14日(金) 前夜祭
会場 三重県営サンアリーナ
開催時間 16:20～21:00

10月15日(土) 祭のまつり
会場 外宮前大通り・勾玉池奉納舞台
開催時間 11:20～15:20

10月15日(土) 初穂曳(外宮領陸曳)
会場 高柳商店街～外宮周辺
開催時間 10:00～12:30

10月16日(日) 初穂曳(内宮領川曳)
会場 五十鈴川 浦田橋～宇治橋
開催時間 10:00～14:30

神宮のお正月 神嘗祭

「瑞穂の国」の実りを祈る神宮の一年で最も重要なお祭りです。

天照大御神が瓊瓊杵尊(にぎのみこと)に稲穂を授けた日本のはじまり、神話の時代からずっと、人々はお米を命の糧とし、豊作を願い、実りに感謝の祈りを捧げてきました。



このお米を収穫する秋、神宮では、一年で最も重要な「神嘗祭」(外宮10月15日・内宮16日)が行われます。その年に穫れた新穀を神様に捧げ、五穀豊稔に感謝するお祭りで、祭器具などをすべて新しくして行われるため神宮のお正月とも言われます。神様に「こちそうを召し上がってください、日本国の安寧などを祈る神嘗祭は、闇に包まれた深夜におこそかに肅行されます。外宮10月16日の正午と、内宮17日の正午には、皇室から差遣された勅使が幣帛(神様への供え物)を正宮に奉納する「奉幣の儀」があり、そして、ご正宮の玉垣には、天皇陛下が皇居内の水田で自ら育て御献進された御初穂とともに、全国から奉献された稲穂の束「懸税」(かけちから)がかけられます。

10月14日(金)三重県営サンアリーナ

前夜祭

恒例となった「祭のまつり」例年、神嘗奉祝祭の前夜は、全国各地から伊勢に到着した祭り団体が、その演舞や民謡をアリーナの大舞台で披露してくれます。

16時30分のオープニングから、20時15分の参加団体による賑やかな総踊りまで次々と繰り広げられる舞台は、見ごたえたっぷり。フィナーレを飾る花火に至るまで、メインアリーナ会場は入場無料、出入り自由です。

■アクセス／シャトルバス13時30分より宇治山田駅からサンアリーナ会場まで運行。



全国各地からのお祭り踊り連による「総踊り」(サンアリーナ)